

ギターCD レター from yakateru(第 40 号)

ついに 40 号。あと 50 号まであと少し。頑張るぞー。ということで、40 号にふさわしい話をとって書いていると、なんと、「演歌」の名曲を次の世代に伝え続けるという重い役割に目覚めてしまったことを書く羽目になった。しかし、これは重要なことだと思う。実は、今消え去りつつある「春歌」も、次に残したいのだが

戦前・戦後の演歌。ギターと一体となって一世を風靡してきたのだ。

人の心を動かす演奏とは(続き)

来週の土曜日に、デイサービス 介護施設で慰問？コンサートをする予定になっている。先月の 14 日「ゆたんぼ」での練習発表会にいられていた看護師さんが、「今度は是非うちの施設で」と声がかかったものだ。慰問というか、楽し時間を過ごしてもらえればと思っっているが、さて、どのような選曲をするのか。介護施設といっても、デイサービスなので結構元気な高齢者も多いということなのだが。

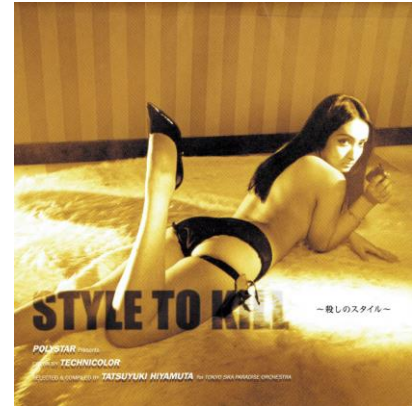
そういえば、大学のギター部時代に障がい者施設の慰問コンサートに行った時のことをふと思い出した。ギター部員は、20 歳前後のメンバー。演奏を聴いてもらう人も、同年代かもっと若い障がいを持った方々で、車椅子に座っている方が結構いた記憶がある。演奏そのものは、何をやったか覚えていないが、演奏後、座談会のような話し合いがあり、その時の話にショックを覚えた記憶がある。というのは、ひとりの青年が話した一言。たしかこんなニュアンスだった。「私たちは見た目は知恵遅れみたいに見えますが、一日中、本読んだり、色々と考えたりしていますので、結構、物知りですよ」と。確かな記憶ではないが、水頭症の方もいたと思う。正直、初めて見る姿かたちに、びっくりしたのと同時に、印象だけ、見た目だけで判断し、彼らを自分より知恵遅れの人たちと思ってしまった。しかし、実態は、話をすればするだけ覆された。話の内容は、自分

たちが、知識不足・経験不足の馬鹿者に見えたことを強烈に覚えている。本当に、先入観で見えてしまいごめんなさいと思った。

さて、今回は高齢者の介護施設なので、人生の先輩方である。あと、10 年すれば、いやその前にも、おそらくお仲間に入れてもらうことにもなるだろう。

ということで、70 歳前後の方をイメージすることとし、「演歌」で勝負しようと思っている。JAZZ やボサノバを好きな人や、クラシックを聴く人もいるだろう。しかし、今回は、ともかく「演歌」だ。

実は、7 月 5 日から 6 日にかけて、奥雲仙でミヤマキリシマ保全活動をやってきたが、大分応援団の 65 から 70 歳までの農家や土建業の方々数名も参加した。この中に、昔、名古屋で流しのギターをやってたことがあるというカボス農家のおっちゃんがいらっしまった。宴会の場の余興で、私のギターを取り上げ、同僚の方の歌で、ブンチャカチャチャ…と、演歌をやり始めた(わたしゃ、アルハンブラを弾きました)。それが、なかなかいいのだ。楽譜は全く読めないとはいわれたが、数百曲は OK だということ。歌に合わせて、指が勝手に動く。コードというものでもない、合いの手的にギターの副旋律が歌い手の歌に寄り添い心地よく流れるのだ。そして、これらは、観客によく受ける。拍手喝采だ(アルハンブラもそれなりに受けてました)。



そこで、以前買っていた「ギターソロ 演歌の心」という昭和ヒット曲 150 曲の楽譜を引っ張り出し、弾き始めた。が、意外といいのだ。というか、昭和 30 年代の曲、それ以前の曲でも結構、わかるのだ。そうなのです。おそらく私たちの世代が、戦前・戦後から昭和 40 年代までに流行った、いわゆる「演歌の時代」をリアルに子供ごろにも体験した最後の世代なのだ。逆に、青年以降の 50 年代後半以降の新しい演歌は知らない。

ということで、突然、私たち世代が、これらの演歌の名曲を次に伝える役目を背負わなくて誰がやるのだ！！という気持ちに芽生えてしまった。藤山一郎の「酒は涙か溜息か(S6)」や「影を慕いて(S7)」なんかは、昭和一桁である。近江俊郎の「湯の町エレジー(S23)」や大津美子の「ここに幸あれ(S31)」は生まれる前、私が 2 歳の時の歌である。ということで、今回の介護施設での演奏会はもとより、ミニ演奏会などでは、極力 1 曲は、演歌を入れてみようと思った。

さて、今日のお薦め CD は、演歌！！と行きたいが、残念ながら CD ではもっていない。一番近いのはこれかということで選んだ。渡哲也、宍戸錠ら主演のヤクザ映画の主題歌集の CD。ジャケットもエロくていいが、曲もいい！(続)

1. get the red flower in the monochrome (1:09)

「野獣の青春」日活 1963 監督：鈴木清順 音楽：奥村 一

2. this is good enough (1:03)

「暗黒街の美女」日活 1958 監督：鈴木清順 音楽：山本直純

3. (We Know It's) ALL OR NOTHING (3:14)

東京スカパラダイスオーケストラ [作曲] 冷牟田竜之

4. everything goes to mad (2:07)

「すべてが狂ってる」日活 1960 監督：鈴木清順 音楽：三保敬太郎・前田憲男

5. serial events (1:22)

「すべてが狂ってる」日活 1960 監督：鈴木清順 音楽：三保敬太郎・前田憲男

6. i feel good (1:30)

「すべてが狂ってる」日活 1960 監督：鈴木清順 音楽：三保敬太郎・前田憲男

7. two, three, beats! (1:31)

「探偵事務所23 くたばれ悪党ども」日活 1963 監督：鈴木清順 音楽：伊部晴美

8. his steps beyond (1:19)

「ハイティーンやくざ」日活 1962 監督：鈴木清順 音楽：伊部晴美

9. young ideas (1:36)

「ハイティーンやくざ」日活 1962 監督：鈴木清順 音楽：伊部晴美

10. twist 'n' sing!!! (0:46)

「東京流れ者」日活 1966 監督：鈴木清順 音楽：鍋木 創

11. spring vision (2:46)

「春の死」詳細不明

12. new rhythm (0:32)

「関東幹部会」日活 1971 監督：沢田幸弘 音楽：玉木 宏樹

13. cruel youth (5:06)

「青春残酷物語」松竹 1960 監督：大島 渚 音楽：真鍋理一郎

14. a girl leader of the pack (1:10)

「女番長 仁義破り」日活 1969 監督：江崎実生 音楽：佐藤允彦

15. hanky-panky, babe (2:12)

「女番長 仁義破り」日活 1969 監督：江崎実生 音楽：佐藤允彦

16. brass a go-go (1:09)

「女番長 仁義破り」日活 1969 監督：江崎実生 音楽：佐藤允彦

17. straight to the sun (2:00)

「太陽は狂ってる」日活 1961 監督：舛田利雄 音楽：伊部晴美

18. make it move (1:53)

「沈丁花」東宝 1966 監督：千葉泰樹 音楽：黛 敏郎

19. glamorous love (3:51)

「豚と軍艦」日活 1961 監督：今村昌平 音楽：黛 敏郎

20. whisky jive (2:54)

「豚と軍艦」日活 1961 監督：今村昌平 音楽：黛 敏郎

21. pump up be-bop (1:11)

「豚と軍艦」日活 1961 監督：今村昌平 音楽：黛 敏郎

22. a desperate fight (1:29)

「豚と軍艦」日活 1961 監督：今村昌平 音楽：黛 敏郎

23. i never do anything (1:59)

「豚と軍艦」日活 1961 監督：今村昌平 音楽：黛 敏郎

24. 47 fascinating babies (1:38)

「おしゃれ大作戦」東宝 1976 監督：古澤憲吾 音楽：広瀬健次郎

25. piano ballroom night (1:25)

「六本木の夜 愛して愛して」東宝 1963 監督：岩内克巳 音楽：團 伊玖磨

26. good rolling (0:30)

「写真記者物語 瞬間に命を賭ける」東宝 1963 監督：坪島 孝 音楽：広瀬健次郎

27. another peter gun (2:10)

「暗黒街全滅作戦」東宝 1965 監督：福田 純 音楽：広瀬健次郎

28. surf'n' in the underworld (1:53)

「暗黒街全滅作戦」東宝 1965 監督：福田 純 音楽：広瀬健次郎

29. goldeneye (1:30)

「100発100中・黄金の眼」東宝 1968 監督：福田 純 音楽：佐藤 勝 [作詞] 谷川